

都市再生整備計画事業 事後評価シート(原案)

旧吉松家住宅周辺地区

令和4年2月

宮崎県串間市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮崎県	市町村名	串間市	地区名	旧吉松家住宅周辺地区			面積	41.0ha					
交付期間	平成26年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費*	1571.6百万円	国費率	0.4	※交付対象事業費には、道の駅「くしま」の飲食・物販施設の事業費は含まない。						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
	基幹事業		地域生活基盤施設(旧吉松家住宅前市民広場、三角地広場、地域資源の情報板)、高質空間形成施設(仲町通り)											
	提案事業		地域創造支援事業(複合施設整備事業)、まちづくり活動推進事業(旧吉松家住宅活用事業、景観形成事業)											
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業	地域生活基盤施設(旧吉松家住宅前市民広場、三角地広場)			【第1回変更】平成27年3月「串間市中心市街地まちづくり基本計画」を策定。これまでの商店街の活性化を主とした「旧吉松家住宅周辺活性化事業」に、広域交通ネットワークの結節点である串間駅前交差点区域において、その機能を最大限に活用するため、機能強化を図った「まちなかの道の駅」を集客戦略の核としてこれを融合させ、これにより必要な施設を検討整理したため			【第1回変更】全ての指標の目標値を道の駅の集客を考慮したものに上方修正					
	提案事業	なし			—			—						
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(旧吉松家住宅前市民広場)、地域生活基盤施設(防災広場整備、イベント広場)、高次都市施設(情報発信施設(観光交流センター)、市民交流施設(地域交流センター))			【第1回変更】(公園、地域生活基盤施設(イベント広場を除く)、高次都市施設)上記基幹事業削除に同じ 【第2回変更】地域生活基盤施設(イベント広場)イベントを開催できる屋外の空間が少なく、まちなかでのイベント開催場所が限られているため、道の駅広場内にイベント広場や屋根付きのイベントホールを整備			【第1回変更】上記基幹事業削除に同じ 【第2回変更】影響なし					
		提案事業	事業活用調査(事業効果分析調査)			【第2回変更】事後評価の必要があるため追加			影響なし					
	交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		【第2回変更】影響なし							
		変更	平成26年度～令和2年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	‘地域のまちづくり’の満足度の向上(10点満点中)	点	3.9	H25	6.0	R2		4.8	×	あり なし ○	旧吉松家住宅活用事業や仲町通りにおける舗装の高質化等により、仲町通りの満足度は向上したが、コロナ禍により各種イベントが中止となり、周知啓発につながらず3つの地域資源の認知度向上には至らなかった。	令和5年8月	
	指標2	地域活性化拠点の来場者数の増加 ※計画当初、本指標は「旧吉松家住宅来館者数」であったが、道の駅関連の事業追加以降は、「計画区域への来場者数」としている。	人/年	9,212	H24	287,000	R2		376,377	○	あり なし ○	令和3年4月の道の駅「くしま」の開業により、本市の地域活性化拠点区域の集客力が劇的に向上し、結果として来場者数の増加につながった。	令和4年5月	
	指標3	イベント回数の増加	回/年	5	H24	17	R2		4	×	あり なし ○	コロナ禍による影響で各種イベントが軒並み中止・延期となっているが、コロナ禍前は各種イベントも活発に開催されており、まちづくりの機運の高まり等の一定の効果があったと思われる。	令和4年5月	
	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	旧吉松家住宅の来館者数の増加	人	9,212	H24				1,946			コロナ禍以前は、旧吉松家住宅活用事業をはじめ、仲町通り修景整備や市民広場整備、指定管理者による運営等が功を奏し、来館者数が増加に転じた。しかしながら、令和2年度以降、コロナ禍の影響により来館者数は激減しているものの、令和3年度は前年比で若干の増加が見込まれる。	令和4年5月	
	その他の数値指標2	コミュニティバス「よかバス」市街地循環線の利用者数の増加	人	8,942	H25				6,533			平成20年度の運行開始以降、9千人/年前後で推移していたが、コロナ禍の影響により減少傾向に転じるものの、令和3年度は若干の増加が見込まれる。	令和4年5月	
4)定性的な効果発現状況	*当該地区における過去10年間の新規出店は6件であり、また、まちづくりに関する事業を定款に位置付ける民間事業者も立ち上がり、新たな賑わいを演出している。													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況										今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた											
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
	住民参加プロセス	・まちづくり会議等市民会議 ・講演会 ・地区説明会・住民説明会	都市再生整備計画に記載し、実施できた											
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											●
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											(まちづくり会議等市民会議、講演会) 今後も継続的に必要に応じて実施していく。 (地区説明会・住民説明会は完了)
	持続的なまちづくり体制の構築	自立した‘まち’を創造・経営していくため、市民がまちづくりに自主的・積極的に参加するための仕組み・体制づくりを進め、市民と行政がそれぞれの役割と責任を持って協働する市民参画のまちづくりを目指す。 【組織名】くしままちづくり協議会 【組織の概要】仲町商店会を中心とした市民有志で「くしままちづくり協議会」を設立し、イベント活動等を中心に活動を展開している。なお、協議会メンバーの有志により合同会社を設立し、令和2年4月より3年間、旧吉松家住宅の指定管理者として、その役割を担っている。	都市再生整備計画に記載し、実施できた											●
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した														
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった														

旧吉松家住宅周辺地区（宮崎県串間市） 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：住む人と訪れる人がふれあう にぎわいとうるおいのあるまち ～「旧吉松家住宅」を感じるまち～ 目標1 旧吉松家住宅をはじめとした地域内に点在する地域資源を活かし、各地域資源の市内外での認知度を高めるとともに、訪れる人の興味・きっかけがふれるまちづくりを進める。 目標2 住む人や訪れる人にとって、うるおいと憩いのあるまちづくりを進めるとともに、大規模災害時などへ対応できる防災機能を整えた安心感のあるまちづくりを推進する。 目標3 市民と行政協働の取組により、『串間』の中心市街地にふさわしいにぎわいを創出し、来訪者の本市を代表する観光地への回遊性を高める情報発信や市内周辺地域とのネットワーク拠点となるまちづくりを進める。		'地域のまちづくり'の満足度の向上(10点満点中)		単位：点	3.9	H25	6.0	R2	4.8 R3
		地域活性化拠点の来場者数の増加		単位：人／年	9,212	H24	287,000	R2	376,377 R3
		イベント回数の増加		単位：回／年	5	H26	17	R2	4 R3

※当初、評価年度は令和2年度予定であったが、道の駅「くしま」の開業（令和3年4月）等を踏まえ、指標計測・評価を令和3年度に実施した。

提案事業：【まちづくり活動推進事業】
景観形成事業

基幹事業：【公園】
旧吉松家住宅前市民広場整備

提案事業：【事業活用調査】
事業効果分析調査

提案事業：【まちづくり活動推進事業】
旧吉松家住宅活用事業

基幹事業：【地域生活基盤施設】
イベント会場予定地造成

関連事業
地域振興施設整備事業

基幹事業：【地域生活基盤施設】
防災広場整備

基幹事業：【地域生活基盤施設】
地域資源の情報板

提案事業：【地域創造支援事業】
複合施設整備事業

基幹事業：【高質空間形成施設】
仲町通り

関連事業
市民まちづくり活性化事業
(路面電車活用)

基幹事業：【高次都市施設】
情報発信施設
(観光交流センター)

基幹事業：【高次都市施設】
市民交流施設建設予定地造成
(地域交流センター)

関連事業
国道220号「簡易パーキング
整備事業(直轄事業)」

凡 例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業

まちの課題の変化	・「旧吉松家住宅」を中心としたエリアにおけるソフト・ハード両面の取組実施により、「旧吉松家住宅」を核とした街並み全体の魅力向上、まちづくり意識の向上が図られた。 ・道の駅開業及び串間駅前広場における地元主体の取組実施により、集客力向上が図られた。一方で、道の駅に隣接する未利用地の活用に対する機運や、道の駅周辺の空店舗等による景観への影響の懸念が高まっている。 ・仲町商店会を中心とした市民有志で「くしままちづくり協議会」を設立し、イベント活動等を中心に活動を展開している。なお、協議会メンバーの有志により合同会社を設立し、令和2年4月より3年間、旧吉松家住宅の指定管理者として、その役割を担っている。また、令和3年4月に開業した道の駅「くしま」についても、民間企業(株式会社海山社中)が指定管理者として運営(令和3年度～令和7年度)しており、住民・行政協働による取組が進められている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	(効果持続策) ・「旧吉松家住宅」を核としたまちづくりの展開…地域住民に対し、市の観光に対する取組を周知するとともに、来訪者をもてなす意識や地域に対する愛着を高めていただくため、そうした取組に対する支援を行う。 ・集客アップに向けた取組の展開…東九州自動車道の開通を見据えた近距離客をターゲットにした取組と周遊観光の促進と新たな観光需要の拡大に向けた取組、SNS等によるタイムリーな情報発信を展開する。 ・住民・行政協働による取組のより一層の展開…仲町商店会が中心となり、旧吉松家住宅や道の駅「くしま」の指定管理者等との連携による来街者が回遊する仕組み構築や街の魅力向上に向けた取組に対する支援を行う。 (改善策) ・市民交流施設(地域交流センター)及びイベント広場の整備 ・道の駅「くしま」隣接地の空き地利活用に向けた取組及び道の駅周辺の空店舗等による景観への影響に対応する景観形成策の検討

※当初、評価年度は令和2年度
予定であったが、道の駅「くしま」
の開業(令和3年4月)等を踏ま
え、指標計測・評価を令和3年度
に実施した。